

# 再び朝鮮産ヒメウラナミジャノメの變異研究

石 宙 明 D. M. SEOK

朝鮮開城松都中學校

本論文は本誌第 47 卷 627~631 頁 (1935) 所載の拙著“ヒメウラナミジャノメの變異研究並に其學名に就て”の續篇とし、其の研究方法は前篇及び拙著ジャノメテフ<sup>1)</sup>、ウラナミジャノメ<sup>2)</sup>等の場合に準ずる。

其の後更に多數の個體を入手したので、茲には夫等の標本と既發表の分とを合して主として翅面の眼狀紋數及び前翅長に於ける變異を統計學的に論じ、併せて其の性比、畸型、分布等にも論及した。

## I 眼狀紋の數に於ける變異

第 1 表 各翅室に於ける眼狀紋の符號<sup>3)</sup>

前 翅		後 翅	
b の直上斑 (第 6 室)	a	第 7 室	e
前角大斑 (第 3~5 室)	b	第 6 室	f
b の直下斑 (第 3 室)	c	第 5 室	g
第 2 室	d	第 4 室	h
		第 3 室	i
		第 2 室	j
		第 1 室	k

〔註〕 後翅表裏面共第 1 室斑は 2 個の小班に分離せる場合も之を 1 個と見做すことにする。

第 2 表によれば、♂♀ 共に前翅の一大斑 (b, b'), 後翅表面の 2 斑 (i, j) 及び後翅裏面の 5 斑 (f', g', i', j', k') は夫々決定的の斑で、他には準決定的の斑も認められないこと前報に於けると同様である。但し f' 斑は ♂ に於ては例外的に缺せる個體が認められる (第 2 表 38 號)。

- 1) 朝鮮産ジャノメテフの變異研究; 本誌 49 卷 11 號, 1937.
- 2) 朝鮮産ウラナミジャノメの變異研究; 本誌 50 卷 2 號, 1938.
- 3) 眼狀紋及び其他の斑紋研究上の一様式; 本誌 48 卷 12 號, 1936. 參照。



第3表 第2表の模様を變へて作製せる各個體の有する眼狀紋總數による分類表

眼紋の數	9	10	11	12	13	14	15	計
♂の數	1160	1683	326	55	25	—	—	3249
♀の數	160	386	418	121	58	7	1	1161
♂♀の計	1320	2079	744	176	83	7	1	4410

第4表 第3表を更に模様を變へて作製せるもので眼狀紋數の平均值、標準偏差及び變異係数を示す

	平均值と中央誤差	標準偏差と中央誤差	變異係數と中央誤差
♂	9.80±0.0033 個	±0.74±0.0062 個	7.55±0.0607 %
♀	10.61±0.0202 個	±1.05±0.0135 個	9.90±0.1362 %
その差	0.81±0.0220 個	0.31±0.0149 個	2.35±0.1490 %

第3~4表によれば、眼狀紋の數は♀に於て多く且つその變異性も♀に於て大である。

## II 前翅長に於ける變異

第5表 前翅長の變異表

mm	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	計
♂の員數	1	7	80	656	1322	1006	220	49	17	—	3368
♀の員數	2	20	125	391	387	193	47	14	9	1	1189
♂♀の計	3	27	215	1047	1709	1199	267	63	26	1	4557

〔註〕 本表中の個體總數が前出眼狀紋數に於ける數と一致せざるは、前翅長は測定出来ても眼狀紋の數へられぬものや、その反對の場合のものがあるからで、實際の調査個體は何れの表の總計數よりも多い筈である。

第6表 前翅長の平均值、標準偏差及び變異係數

	平均值と中央誤差	標準偏差と中央誤差	變異係數と中央誤差
♂	19.24±0.0119 mm	±1.02±0.0084 mm	5.30±0.0438 %
♀	18.71±0.0235 mm	±1.20±0.0166 mm	6.41±0.0892 %
その差	0.53±0.0263 mm	0.18±0.0186 mm	1.11±0.0994 %

第6表によれば、(1)♂の前翅長は♀に比して明瞭に大である。然し翅形に於ては♂は角張り、♀は丸味を帯びるから、その翅の實質の面積に於ては何れが大であるかは今の所明言出来ない。(2)前翅長に於てもその變異性は♀に於てより大であること眼狀紋數に於けると同様で、此の事實は本種と近縁のウラナミジャノメ(1938)に於けると全く同じである。

## III 雌雄間の性比及び前翅長比 (第7表)

この第7表によれば、朝鮮産本種の任意の採集品では♂の個體數は♀の3倍近くもある。

第 7 表 (前項は ♂, 後項は ♀)

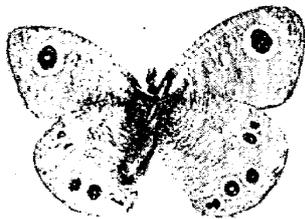
性 比	前 翅 長 比
個體數 3368:1189	平均値 19.24:18.71 mm
283:100	103:100
74:26 %	

IV 畸 型

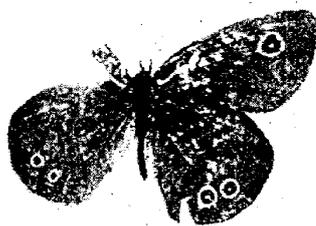
1. ♂ 開城 1934. viii. 24 (第 1 圖, 裏面)

右前後兩翅の稍小なるものである。左前翅長 19 mm, 右前翅長 17 mm.

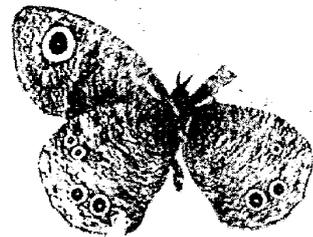
2. ♂ 開城 1935. v. 28 (第 2~3 圖,



第 1 圖



第 2 圖



第 3 圖

表裏面)

a. 左後翅が微に小さく, 其の眼紋は發達せずして著しく左右相稱ならざるものである。

b. 表面眼紋。右翅同様第 2, 3 室兩斑はあるけれど著しく小さく中點を缺き, 第 2 室斑は附屬斑 (♂) を有す。

c. 裏面眼紋。第 1 室斑は微小となり, 第 6 室斑は缺す。

3. ♂ 開城 1935. v. 31. (第 4 圖, 表面)

左前翅外縁第 2 脈附近が少しく彎入せるものである。

4. ♂ 開城 1937. vii. 29.

左前翅外縁が第 3 脈部に彎入部を有する。前翅長左右共 20 mm.

5. ♂ 開城 1937. vii. 31. (第 5 圖, 裏面)

a. 左右兩後翅前角部に曲度緩漫なる大きな彎入部を形成し, その爲に附近の翅裏面上の 2 眼狀紋は著しく萎縮す

る。右側に於て更に甚しい。

b. 同じく兩後翅内縁部も微に内彎し随つて兩肛角は稍鋭。

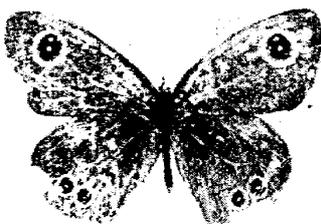
c. 左前翅前縁には大なる彎入部を形成す。然し前翅長は左右共同じく 19 mm.

6. ♂ 金川 1937. viii. 15.

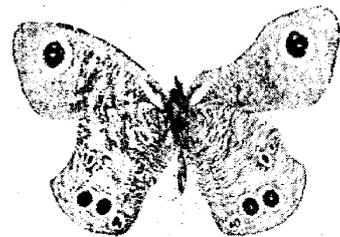
右前翅前角部が稍鈍, 左前翅長 19 mm, 右前翅長 16 mm.

7. ♀ 海州 1938. viii. 20.

左前翅外縁が第 2 脈を中心にして少しく彎入して殆ど直線を呈せる個體で, 前翅長は左右共 17 mm.



第 4 圖



第 5 圖

以上の 7 個の外に既発表の ♀ 1 個<sup>4)</sup>を合して ♂ 6 個, ♀ 2 個, 計 8 個は悉く翅に於ける畸型の個體で, 夫等の正型個體數に對する割合を見れば第 8 表の通りである。

第 8 表 畸型個體數と正型個體數との比

	畸型個體數と正型個體數との比	畸型個體 1 個に對する正型個體の數
♂♀ 合して	8 : 4557 (0.18 %)	1 : 570
♂ のみ	6 : 3368 (0.18 %)	1 : 561
♀ のみ	2 : 1189 (0.17 %)	1 : 595

第 8 表によれば, 畸型個體數が少くて茲に考察を試みるのは多少危険であるけれど, 畸型個體數から見ては, 變異性の弱い ♂ に畸型個體が多く變異性の強い ♀ に畸型個體が少くて, 既発表のモンシロテフ (1936, 1937) やジャノメテフ (1937) 等に於けると同様である。

## V 分 布

朝鮮に於ける分布は第 6 圖採集地圖の示す通りに全鮮に亙るもので唯鬱陵島に産しない。茲で一つ添記したいことは, 朝鮮産標本では北鮮産程大型であるやうに見られることである。然し産地別に數理的に取扱つてゐない限り明瞭には今の所斷言は出來ない。

尙ほ比較研究の爲に支那, 滿洲, 千島, 北海道, 本州, 四國, 九州, 臺灣等諸地産標本をも檢したが皆朝鮮産と一致する。尙ほ文献によれば本種はシベリア, アムールにも産してゐて, ウラナミジャノメ同様に本種も東亞産の 1 種と言へやう。但し樺太には産しないやうである。

### Resumo

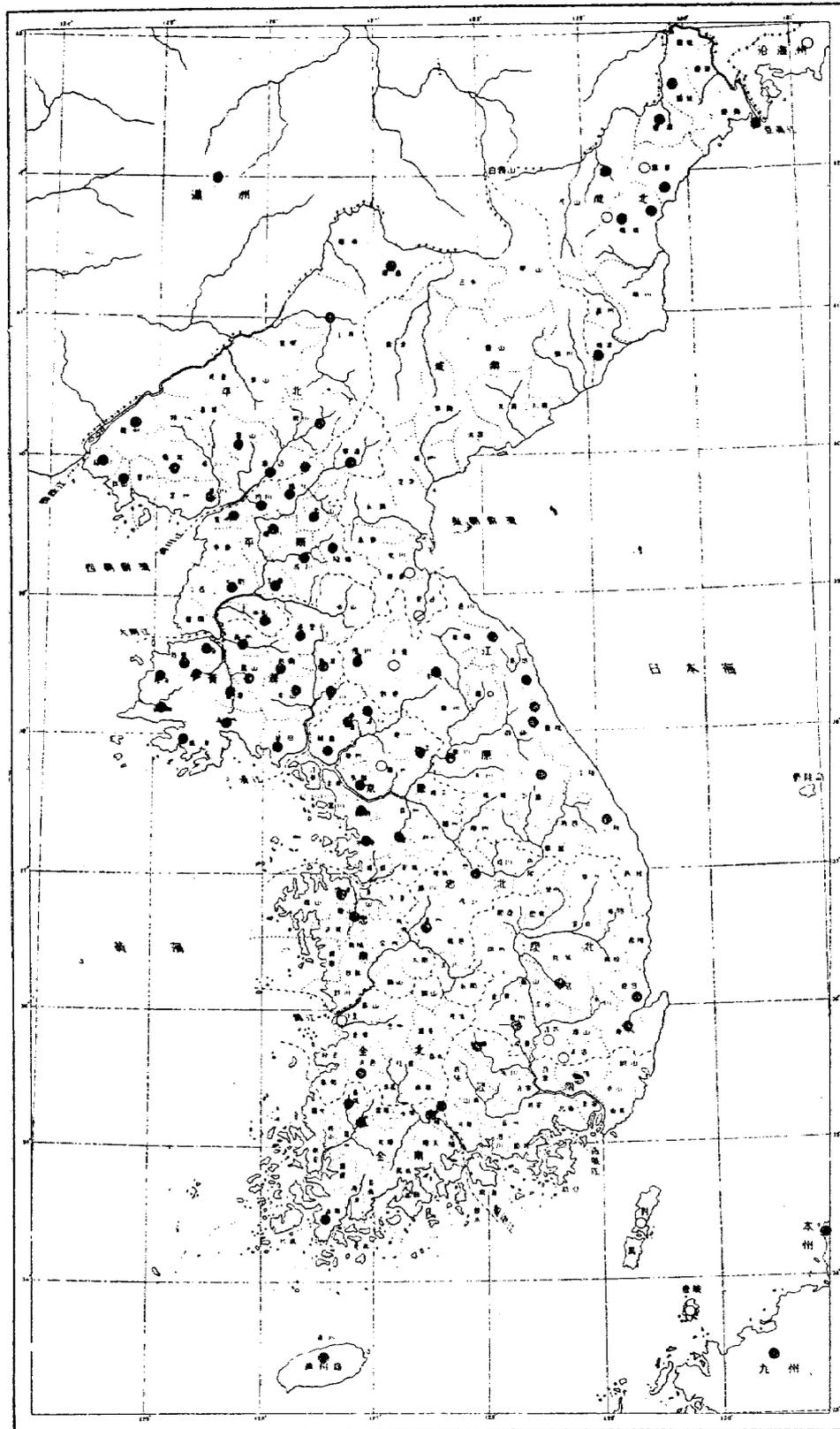
Ankoraŭfoje pri la varieco de *Ypthima baldus* FABRICIUS de Koreujo.

D. M. SEOK

*Songdo Liceo, Songdo, Koreujo*

Ĉi-tiu laboraĵo estas la daurigo de mia publikigita artikolo "Pri la varieco de *Ypthima baldus* FABRICIUS kaj ĝia nomo" (Zool. Mag., vol. 47, p. 627~631, 1935). La enhavo de ĉi-tiu artikolo estas jena: (1) Varieco de la nombro de okulmakuloj sur flugiloj. (2) Varieco de la longeco de antaŭ-flugiloj. (3) Proporcio de la sekso kaj la longeco de antaŭ-flugiloj. (4) Malbonajformuloj. (5) Distribuo.

4) 鹿兒島高農創立廿五周年記念論文集, 前編, p. 787, pl. 1, fig. 14, 1934.



● 供検個体の産地      ○ 文献による産地  
 第6圖 ヒメウラナミジヤノメの採集地